

海外事業

アビジャン交差点橋 2 期工事の施工報告

南英浩

九津見昌宏

土木本部 海外部 工事グループ

土木本部 海外部 工事グループ

概要

安倍晋三／日本・コートジボワール友好交差点橋は、西アフリカ、コートジボワール共和国最大都市アビジャンの渋滞が最も激しい市中心部の交差点の一つにおいて施工された。現場は行政業務地区と空港を結ぶ重要なルート上にあり、このプロジェクトにより交通の円滑化と経済成長の促進が期待されている。第一次計画は 2019 年 12 月に完工式が行われた。当社が施工する第二次計画は 2021 年 12 月に起工式が行われ、2024 年 9 月に竣工予定である。このプロジェクトの資金は日本政府からの無償資金援助によって支えられており、日本とコートジボワールの友好関係を強化し、交通インフラの改善を通じて経済的な発展を促進することを目的としている。

当現場の施工業者は鴻池組・ピーエス三菱 JV である。当社施工範囲は、PC 上部工（橋長 589.500m）である。構造的には PC10 径間有ヒンジ中空床版橋+PC2 径間場所打ち箱桁橋+PC3 径間場所打ち箱桁橋+PC9 径間有ヒンジ中空床版橋、橋長 589.500m、総幅員 10.100m、有効幅員 8.500m である。ここでは上記範囲の PC 上部工のうち、交差点上空で移動作業車を用いた片持架設工法による PC3 径間場所打ち箱桁橋（橋長 130.100m）の施工について報告する。

施工場所はアビジャンでも最も渋滞の激しい交差点の一つである。移動作業車は、下段作業台をシート養生により釘等の落下防止措置を、作業車の移動は交通規制により車両を一時通行止めして行った。当社にとって初めて施工する国で、地元の人材派遣会社から送り出された全く作業経験がない作業員を直接動かさなければならなかった。

施工

1. 施工中の苦労

筆者とインドネシア人の当社職員 1 名、外注日本人スーパーバイザー（作業指導員）2 名で張出施工を行った。作業員が橋梁工事に不慣れなので、手戻り作業がないように、また怪我をさせないように施工を進めた。毎日同じことを繰り返し指示することで P13 の施工が終わり P14 の移動作業車を組み立てるころには日本人作業員と同じとまではいかないが、施工の熟練度は驚くほどに向上していった。コートジボワールの言語はフランス語で、最初はコミュニケーションの面で苦労したが、英語が堪能な大学出の作業員が何人かいたので、彼らを通すことで我々の指示をスムーズに伝達できた。次第に英語を理解する作業員も増えていき施工後半は楽になっていった。アフリカ特有の苦労といえば感染症である。マラリアも罹患率が高いが現在は良い薬があるので極度に恐れる必要はない。

2. 西アフリカ（フランス語圏）での工事

筆者にとってフランス語圏での工事は初めてなので、最初は戸惑うことが多かったが、世界共通言語の英語を使え、日本での工事経験が十分にあれば対応できると感じた。海外工事に興味がある方はこのようなあまり日本人には馴染みのない国での仕事にも興味を持っていただければと思う。

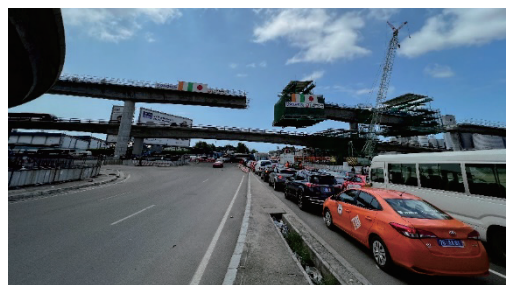


写真-1 張出施工状況



写真-2 カウンターウエイト載荷状況

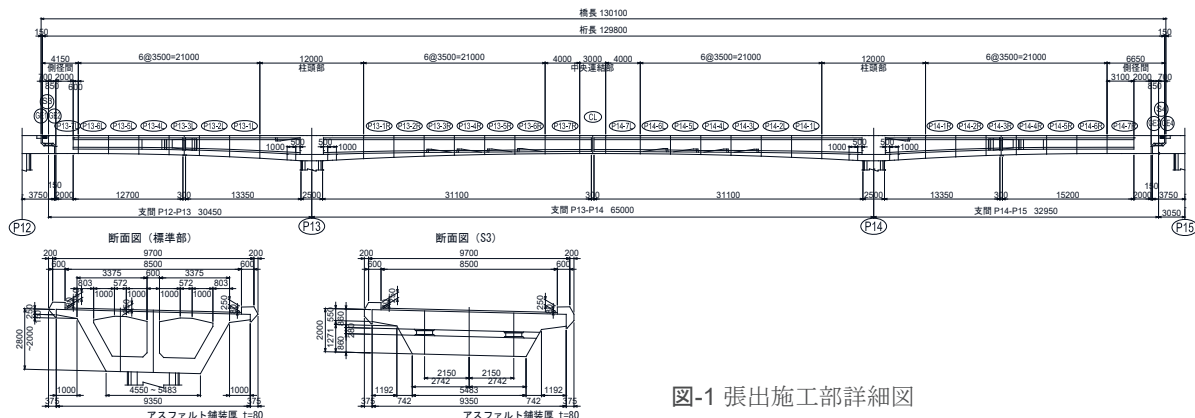


図-1 張出施工部詳細図

Key Words : 西アフリカ, 無償資金援助, 渋滞解消, 経済成長